



西林寺本堂 全景



西林寺だより

発行元
西林寺門徒総代会
広島県安芸郡坂町
坂東3-14-17
(082)885-0018
iタウンページ
西林寺

杖のことば

私の「ものさし」で
問うのではない
私の「ものさし」が
問われている

住職の在職30年を迎えた今年、かねてより念願であった寺報創刊の縁が整いました。ことは、誠に感慨深いものがあります。人生は苦悩を縁として、そこに生きるこの意味に出遇ってゆくものだと思います。仏さまとはそんな苦悩する人間に寄り添い、そこに「自分の人生はこのままでいいのか」「何のために生きているのか」という「いのち」への問いかけに對して、確かな方向と意味を明らかにしてくれるはたらき（真実）です。

現代という時代は、これまで以上に、仏さまの教えを拠りどころに心を育ててゆくことの大切な時代ではないでしょうか。この『西林寺だより』を仏さまの教えに人生を問い訪ねてゆく縁としていただけたら幸甚です。

この寺報を通して西林寺の歴史や行事等をお知らせします。西林寺の活動にご理解いただけます。西林寺をより身近に感じていただけますことを念願とし、発刊のあいさつといたします。



住職
河野行昭

発刊にあたって

花まつり

若婦人会会長 正原 弥生



お釈迦さまに甘茶をかけます

4月2日(土) 午後1時30分より、西林寺本堂で「はなまつり」を行いました。「はなまつり」は、仏教を開かれた「お釈迦さま」のご誕生を祝う集いです。「お釈迦さま」の誕生日は4月

8日ですが、西林寺では毎年、子どもたちの春休みの間に行っています。当日は快晴で境内の桜も満開で、お釈迦さまの誕生を祝っているかのような様子でした。御院家さまの法話の後、皆さまとほとけさまの歌を歌い、「やまびこ」の皆さまによる素敵なお話を聞きました。例年より少し子どもたちの姿が少なかったのが残念でしたが、



合掌・礼拝しました

「子どもが行こうと誘ってくれたので来ました」と喜んで参加くださったお母さまの姿が印象的でした。また、赤ちゃんを抱え、リュックを背って来てくれたママ友さんたちにも元気をいただきました。皆さまに「蓮華の会」特製のアロマキャンドルを記念にお配りできたこともありがたいことでした。

キッズサンガのご案内

7月26日(火)

夏休みにお寺で過ごしましょう。「そうめん流し」もあります。申し込みは西林寺及び最寄りの若婦人会会員まで。



前回のキッズサンガの皆さん



参加のお母さま方

編集後記

試行錯誤の中、なんとか発刊に至りました。今後ますます充実した、皆さまに親しんでいただける寺報になりますよう努力する所存です。ご理解とご支援、そしてご愛読の程、よろしくお願い申し上げます。

なお、次号にて門徒総代会総会の詳細はご報告します。編集委員一同

法座案内

- 安居会 七月十日(日)昼席より 講師 孟蘭盆会
- 孟蘭盆会 八月十三日(土)昼席より 講師 彼岸会
- 彼岸会 九月二十一日(水)昼席より 講師 三明慶輝師
- 安居会 七月十二日(火)朝席まで 講師 九夜会 諸師
- 孟蘭盆会 八月十六日(火)朝席まで 講師 長尾量之師

聞思録(もんしりく)

最近、強く感銘を受けた言葉があります。「人々の愚かしさというものは、あらゆるものについて答えをもっているということからくるのだと自分は思う。あらゆるものについて自分は答えをもっていると考えていることよって、愚かしさというものが生まれるのではないか」というものです。

これまで人間の愚かしさというものは答えをもっていないことによるものだと思っていました。だから、経験を糧とし、学びを深め、答えをもつことを求めてきました。住職として、ひとりの求道者として、少しでも確かな答えをより多く身につけたいと願ってききました。しかし、そうやって身につけた答えを、改めて問い返すことなく、確かな「ものさし」として、ものを思考し判断することが、時として、人を傲慢にし、ものを正しく判断することを阻害しているのではないのでしょうか。

さらには、問い返すことなく、初めから親鸞さまやお釈迦さまの言葉を絶対視(答え)して、ものを思考し判断するならば、それがどれほど時代社会の問題と向き合っているように語られても、人の心に響く言葉とはならないでしょう。「阿弥陀さま」や「お浄土」もそうです。なぜ私にとつてなくてはならないか。

人生をかけて問いをつくすことなしに、初めから確かなものとして絶対視してゆくならば、それは慰めやごまかしにはなっても、生きることの本当の意味に目覚めてゆく真実の歩みとはならないでしょう。

大切なことは、自分の学びが、自分の歩みを通して、「これこそが答えだ」「これこそが求めるべきものだ」と受け止め、握りしめてきた答えを「ものさし」としてものを思考し判断するのではなく、その「ものさし」を自身が握りしめるところに、問いかえしてゆかなければならない不確かさを内包しているという事実には立ち続けるということです。

人生は自分の積み重ねてきた学びと経験によつて身につけた答えを「ものさし」として、数多の苦難に立ち向かってゆくものです。しかし、仏法は、その「ものさし」は確かなよりどころにはならない。私の「ものさし」が常に問い返されてゆく歩みとひとつになつて、そこに本当に確かなものへ「仏さま」に出遇えることを教えています。

表紙の「杖のことば」の意趣はそこにあります。教えに遇い、日々の生活を貫く心として、問いに立ち続けることが「聞思」ということです。この寺報が新たな聞法の間となることを願つて、「聞思録」と名付けました。住職の在職30年の節目に、思い新たに聞思の歩みを進めたいものです。

門徒総代会 会長のあいさつ



奥 紘太郎

歴史と伝統のある、西林寺の長年の懸案でありました寺報『西林寺だより』発刊が、ご住職の在職30周年の記念すべき節目に実現できますことを心からお慶び申し上げます。

現住職は、若くして住職を継職し、親鸞聖人と先人のご労苦を再確認しながら、価値観の多様化する社会状況に真摯に向き合い、教えを私たち門信徒に伝える使命にご精励のことと思えます。さまざま問題を抱える現代ですが、お寺は古くから坂町民の心の支えであり、心を育てる場所でした。何としても次世代にこの教えを伝えてゆかねばなりません。そのためにも、仏教婦人会・仏教壮年会と門徒総代会が連携を密にし、率先して西林寺の護持発展に尽力しなければなりません。

この度の寺報を通して、かけがえのない仏教の教えを皆さまにお届けするとともに、西林寺を身近に感じていただけますように、あらゆる努力をすることを約束して発刊のあいさつとさせていただきます。

仏教婦人会 会長のあいさつ



吉原 幸枝

ご住職さまにおかれましては住職就任30周年を迎えられますこと、誠におめでとうございます。そして、これを機に『西林寺だより』が発刊される運びとなり、本当にありがたいことと喜んでおります。

私は83歳になりますが、毎朝お寺にお参り出来ることを深く感謝しております。お寺への道中の坂道を歩くことは、私の健康の秘訣です。そして、毎日お法りを聴聞させていただくことは、心の健康の秘訣であり、それが何よりの幸せと、日々手を合わせて、これからも精進してまいります。

長年仏教婦人会にお世話になり、多くの皆さまとご縁をいただき、多くのことを学ばせていただきました。研修会や親鸞聖人・蓮如上人のゆかりの地への旅行など、いろいろな思い出が私の心を温めてくれます。寺報発刊が、お寺を身近に感じ、お寺に足が向くご縁となりますことを願っております。

仏教壮年会 会長のあいさつ



大廻 邦雄

西林寺住職の在職30周年を機に、寺報第1号を発行されますことを心からお慶び申し上げます。

仏教壮年会という組織は、昭和37年親鸞聖人700回大遠忌を契機として、青壮年層の門信徒によるみ教えを学ぶ組織づくりが注目されるようになりました。昭和44年、全国で600単位の仏教壮年会の結成を目指して、取り組みへの方向性を示され、西林寺仏教壮年会もその年に創立されました。以来、多くの先輩方々より今日まで受け継がれ、創立47周年を迎えます。

これからは創刊されました、この『西林寺だより』で仏教壮年会の充実した活動報告と行事案内をお知らせいたします。現在会員数は約30名です。皆さん、仏教壮年会に入会して、「限りある生命を満足する生命へ」と、ともに学びませんか。

坊守のあいさつ



河野 麻耶

門信徒の皆さま、平素よりあたたかいお導きとお育てをいただいておりますこと、まことにありがとうございます。心より深くお礼申し上げます。

この度、住職の在職30周年を機に寺報が発刊されることになりました。発刊にあたっては、編集委員の皆さまには、格別のお力添えをいただき、ありがとうございます。これから門信徒の皆さまに届けられます寺報『西林寺だより』が、お一人おひとりのお念仏相続のご縁を深めてゆくことを願い、発刊のあいさつとさせていただきます。

花のすは



仏教婦人会 あれこれ

仏教婦人会総会
及び追弔法要他

4月13日（水）
午後1時より、
西林寺本堂におい



て多くのご参
詣をいただき、
平成27年4月
から28年3月
末までに亡く
なされた、仏
教婦人会会員
16名の追弔法
要が厳かに営
まれました。

よりどころに生き抜かれた仏教婦人会の皆様
さま方の活動に対して改めて感謝し、益々
お念仏を相続したいと思っただけでし
た。

続いて平成28年度の仏教婦人会総会が開
かれました。4月19日（火）午前9時から仏
教婦人会の新旧役員約30名が集まり、本堂
と境内のおそうじを行いました。
今年度は伝灯奉告法要に向け、仏教婦人
会の活動も活発になることが予測されます。

昨年度に増し
てご協力をお
願ひします。

以前、ある理
事さんが「大
変なことばか
りではないよ。
良いこともあ
るよ」とおっ
しゃつたことの
意味が今、本
当によく分か
ります。それは1番に仏法に出会う機会が増
えたこと。2番目は多くの方との出会いです。
良い人と一口では言いつくせない素敵な理事
さんと一緒に、仏教婦人会のお手伝いができ



総 会

の2年間でした。
これからは感
謝の気持ちも忘
れることなく、
学ばせていただ
いたことを心に
深くとどめて、
日々のお念仏を
大切に過ごさせ
ていただきたい
と思います。

仏教婦人会 前副会長

長田 ちとせ



境内の草取り



困難な時代に
も、お念仏を
追弔法要に
参加しました。
16名の追弔法
要が厳かに営
まれました。
よりどころに
生き抜かれた
仏教婦人会の
皆さまの活動
に対して改めて
感謝し、益々
お念仏を相続
したいと思っ
ただけでした。
続いて平成28
年度の仏教婦
人会総会が開
かれました。4
月19日（火）
午前9時から
仏教婦人会の
新旧役員約30
名が集まり、
本堂と境内の
おそうじを行
いました。
今年度は伝灯
奉告法要に向
け、仏教婦人
会の活動も活
発になること
が予測されま
す。

西林寺仏教婦人会
行事のご案内

本堂おみぎき

8月11日（木曜日）

孟蘭盆会・盆踊り

8月15日（月曜日）

みなさまのご参加を

お願いいたします

仏教壮年会 あれこれ

仏教壮年会総会及び懇親会



4月9日(土) 午後2時より、西林寺門信徒会館にて、平成28年度西林寺仏教壮年会総会を行いました。大廻会長のあいさつの後、住職と総代長にもあいさつをいただき、前年度の事業報告及

び決算報告をしました。前年度は仏教壮年会結成45周年記念事業として、親睦グラウンドゴルフと西林願寺の年末行事であるお煤払いに団体参拝してきました。続



総会 大廻邦雄会長あいさつ

いて新年度事業計画等審議して、全員一致で承認しました。

その後、境内の桜の木の下で懇親会を行い、風が吹くと桜の花びらが舞うなか、山本顧問の吟詠など聞き、楽しいひとときを過ごしました。



総会后 境内にてお花見

行事のご案内

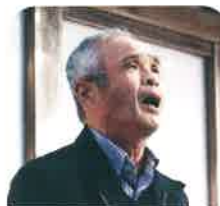
◇夏の納涼ビヤガーデン

好評をいただいております

納涼ビアガーデンを7月30日

(土)午後5時より開催します。お寺の境内で坂町のすばらしい夜景を見ながら、おいしい料理と冷えたビール。暑さもふっ飛びますよ。「そうめん流し」もあります。どなたでも参加できます。子どもさんも一緒にご参加ください。

申し込みは西林寺(☎8855-0018)及び最寄りの仏社会員まで。



山本政信顧問

◇坂町3カ寺仏教壮年会の研修会

今年西林寺が担当です。内容は検討中ですが、学びと親睦を深める、みのりある研修会にしたいと思っております。

仏教壮年会 副会長 林 昭 治

【西林寺仏教壮年会の年間行事】

1. 安芸教区及び安芸北組仏教壮年会の行事に参加 (研修会・研修旅行・グラウンドゴルフ大会等)
2. 定例会を原則として毎月10日に開催予定
新年会・総会と花見・納涼ビヤガーデン
坂町3カ寺仏教壮年会研修会・忘年会
3. 協力行事として
1月おみがぎ・6月境内の庭木の剪定・8月おみがぎと盆踊り・10月境内の庭木の剪定・12月煤払いと除夜の鐘とたいまつ火の番